

あさぎり農業・最適化推進運動

農業委員会名：あさぎり町農業委員会

1 地域の概要

本町は、人吉球磨盆地のほぼ中央に位置し、町の北部を東西に横断する球磨川とその支流である免田川、井口川、阿蘇川、田頭川、銅山川や百太郎溝、幸野溝等の灌漑用水路の水資源を利用する水田地帯と北部丘陵地帯や山間部に形成された畑地帯によって農業が営まれ、農業構造改善事業として圃場整備が他の地域より早く進められ、圃場整備がほぼ完了している。

農業は、水稻、麦、葉たばこ、飼料作物、栗、野菜等を主に作付されており、近年では、法人等の支援により、鳥獣害に影響を受けない作物として、ミシマサイコの薬草栽培にも取り組んでいる。

2 農業委員会の体制

- (1) 農業委員数 26人（うち、認定24人、女性3人）
- (2) 事務局体制 5人（専任5人）

3 掲げた目標

- (1) 意向調査の実施 806件
- (2) 担い手への農地集積面積 142.0ha
- (3) 遊休農地の解消面積 8.2ha

4 目標達成に向けた取組み（運動）の内容

(1) 意向調査の実施

目標地図（素案）を作成するため、対象者806人に対して、各農業委員が担当する地区において、調査票の配布及び回収を訪問型の意向調査により実施した。

担い手への農地の集積・集約化

- (2) 本町の認定農業者は303経営体、農地所有適格法人が21組織、集落営農に取り組んでいる組織が23組織となっている。関係機関と連携を図りながら農地集積・集約を積極的に行いながら、効率的な農地の活用を図る。

(3) 遊休農地の発生防止・解消

利用状況調査を2回（1回目を8月、2回目を11月）、管内5地区を12班体制で実施し、発見した遊休農地に対して、利用意向調査、適正管理のお願い及び利用権設定などの斡旋を行うとともに、復元不可能な農地については、「非農地化」を推進する。

また、農業委員会で発行する農業委員会だよりに、利用状況調査の結果について周知を行う。

5 取り組みの成果

(1) 意向調査の実施

806件を対象とした訪問型の意向調査では、622件を回収し、回収率77.2%であった。

(2) 担い手への農地の集積・集約化

令和6年3月末の農地面積2,870ha、累計集積面積2,054ha、集積率は71.6%であり、うち新規の集積面積は26haであった。

(3) 遊休農地の発生防止・解消

令和6年3月末の遊休農地の面積は17.9ha、農地面積に占める割合は0.62%で、本年度に解消した面積は12.0haであった。

利用状況調査を行った結果、新規にA分類と判定した遊休農地について、農業委員等を介して所有者等に利用意向調査を行った件数は37件、面積は87.704㎡であった。また、新規にB分類と判定した3.57haについては、所有者に非農地通知書を発出した。



【農地利用状況調査】



【農地利用意向調査】

6 課題と今後の方針等

「地域計画」の策定に向け、農業委員会が主体となり作成する「目標地図(素案)」においては、本町の農業を担っていただく農家の意向をしっかりと反映させるため、町、農業公社、JA等の関係機関と連携し、充実した地域の話し合いを開催したい。

今後は、その目標地図を基に、担い手への集積・集約化を図っていくとともに、耕作放棄地の解消へ繋げていく。